

キャッチ番組審議会からのお知らせ

2025年12月16日に「令和7年度 第2回 番組審議会」が開かれました。審議委員のお名前と会議の内容は以下の通りです。

■キャッチ番組審議委員

【刈谷市】齊藤 公人 委員／神谷 圭子 委員 【安城市】原田 淳一郎 委員／榎山 みきゑ 委員 【高浜市】神谷 均 委員／八重口 治美 委員
【知立市】鈴木 徳二 委員／宮部 ゆきえ 委員 【碧南市】荒井 秋男 委員長／河野 恵理子 委員 【西尾市】鳥居 照 委員／木下 奈美 委員

審議番組 「戦後80年 つなぐ、あなたへ」(45分)

終戦から80年を迎え、戦争を経験している世代が少なくなる中、記憶を継承することが難しい現状がある。番組では戦争体験者・遺族・語り部活動を行う学生や学校関係者、一人芝居で戦争を伝える地域の人などを取材した。

議 題 「戦後80年 つなぐ、あなたへ」番組内容について

●碧南市 荒井 秋男 委員長

視聴ターゲット、企画意図、目的に対して番組内容があった。学校関係者へのアンケート調査結果や戦争体験者、遺族など、さまざまな目線からの話や思いが聞けたことで、自身も戦争について改めて考えさせられる良い番組だった。アンケート内で「あなたのまわりに戦争を経験した人はいますか?」の問いについて、「まわり」とはどの範囲か。「経験」とはどこまでを指すのか。より具体的に提示した方が良かったと思った。

●刈谷市 神谷 圭子 委員

番組冒頭で引き込まれ、見なくなる、見なきゃいけないという気持ちになった。ゲストが多様だったので、いろいろな目線で戦争を語っており、特に中学校の先生が生徒たちにどう伝えるか葛藤する様子が大変だと思った。番組進行役がゲストの話をうまく引き出して、「平和は祈るのではなくつくるもの」や「いつまでも戦後であるために」などのワードが印象的だった。戦地からの手紙がたくさん映し出されたが、その中身について触れられなかったのは残念。「ひとり読み語りしばい」の方がどこで行っているか知りたかった。また、その芝居を観た人の感想をじっくり聞きたかった。

●安城市 原田 淳一郎 委員

戦争の記憶が風化し、反戦の意識が薄れる中、戦争について考えるきっかけになる番組だと思う。思いを伝える側と受け取る側、双方の取り組みが紹介されていたので、企画意図や目的が達成できていたと感じた。最終的に問題を提起し、考えてみようという終わり方だったので残念だった。受け取る側の実情を掘り下げて、若者の取り組みや意識、思いを分析し、今後の未来に希望が持てるような締めくくりになると、素晴らしい番組になると思う。

●安城市 榎山 みきゑ 委員

戦後80年で忘れてはならない悲惨な出来事のつらさが、45分間の構成で伝わってきて、戦争の恐ろしさを実感し平和のありがたさを深く感じた。アンケートでは、戦争の話聞いたことがある生徒が27%いたとのことで、その生徒たちの話も拾いあげて伝えてほしいと思う。出演者に親子の世代が含まれていれば、子どもたちにも伝わるのではないと思う。また、戦争の写真や絵を取り入れたら視聴者の目を引くと思う。

●高浜市 神谷 均 委員

今回のような番組企画はよかったと思う。子どもたちに伝えるために、絵本を使ったことはとてもよい方法だと思った。中学生の先生が頑張っていることはよくわかったが、学校全体がどう取り組んでいるか、内容があると良いと思う。このような番組を通して、戦争の悲惨さや戦争をしてはいけないことを子どもたちに学んでもらいたい。

●高浜市 八重口 治美 委員

画面左上の番組のテロップ(文字)が見にくかった。内容が重いので、45分間見続けるには集中力がいると思う。身内の戦争体験者から話を聞いたことがなかったが、今となってはもっとも聞いておけば良かったと思った。実体験者が減っていくこれからの時代に、「百聞は一見に如かず」として、テレビで戦争の悲惨な様子を伝えてほしい。

●知立市 鈴木 徳二 委員

番組進行役がよく勉強されていて、感心した。戦場を経験された方が嫌な記憶ゆえに語りたがらないのはよくわかる。その中で出演者が話してくれたこと、そしてそういう方を見つけてきたことはよかったと思う。子どもたちにどう伝えるかは難しいと実感するし、子どもが見るには重いテーマだと思う。グルメやイベント番組だけでなく、今回の趣旨のような番組にも取り組んでいることを、もっと宣伝してほしい。

●知立市 宮部 ゆきえ 委員

戦争について語るができる世代が少なくなってきた今、このような番組を見ることの意味は大きいと思う。最近の国際情勢をテレビで見ていた娘が本気で心配していた。日本が平和であり続けるとは限らない。何ができるか?どう動くか?本当にアクションを起こせる未来の大人になってもらうにはどうしたら良いのか?を考えさせられた。世界では実際に戦争が起こっている。罪のない市民が犠牲になり、飢えに苦しんでいる事実から目を背けぬように、自分たちはどのように生活していけば良いかを考えながら暮らしていこうと思った。

●碧南市 河野 恵理子 委員

親戚にも爆撃を受けた経験者はいるが、本人が話したがいらないだろうと思い、詳しく聞いていない。そのため、悲惨な記憶をどう引き継ぐかという点では、自身は受け継いでいないと感じるきっかけになった。インタビューの内容をテロップ(文字)で表記して欲しいと思った。戦争の記憶を伝える活動をしている方がいらっしやることは貴重だと思った。また、その方々がいつどこで活動しているのかを詳しく紹介してもらえると、活動に賛同する人がさらに広がると思う。

●西尾市 鳥居 照 委員

視聴対象に学生が含まれていることを考えると、番組内容が重たいので、視聴するのにエネルギーが必要ではないかと感じた。戦争を実際に経験された方の話はもっと聞きたいと思った。番組制作にあたりアンケートを実施したことは素晴らしい。学生の3割が戦争を知らない理由が分かるのと良いと感じた。新しい世代に向けて伝えていく点は良かった。

●西尾市 木下 奈美 委員

戦争を知らない世代のスタッフが「戦争や平和」をテーマに番組を制作するのは、苦労があったと思う。戦争を経験していない視聴者に自分事として捉えてもらうことは非常に難しい中、戦後80年の節目にあたり、過去の記憶を風化させないために、教育現場や地域活動を行っている方に焦点を当て、番組を通じて幅広い世代にアプローチしたことは大変意義深いと感じた。戦争を経験した人が少なくなっていく中、戦争の記憶を継承していくこと、そして過去だけでなく現在や未来につながる問題であることを含めて伝え、皆が考えられるようにした、メッセージ性の強い素晴らしい番組だと感じた。